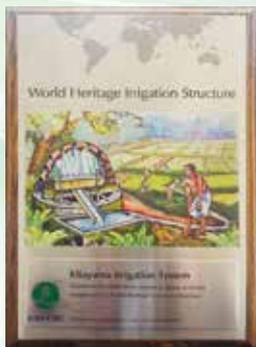


So good!

創宮

- 韓国栄州市との交流
- みんなの憩いの場
地域寄り合い処
- 復興が進む岩手県山田町・
大槌町
- 清水エスパルス 吉田豊選手

So good! vol.40



令和5年11月4日

北山用水が世界かんがい施設遺産に登録されました

- 北山(本門寺)用水は、徳川家康公が戦のお守りとして北山本門寺から借用した御本尊(鉄砲曼荼羅)が身代わりとなり命を救ったお礼に、家臣に命じ整備したと伝わっています。
- 世界かんがい施設遺産とは、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会が認定・登録する制度です。

友好交流関係都市

ヨンジュ 韓国栄州

栄州市とのつながりは、富士宮市サッカー協会が子どもスポーツ交流などを中心に交流を重ね、栄州市から友好交流関係都市提携を結びました。



▲栄州市全景

栄州市は、韓国東南部に位置する慶尚北道北部の山岳地帯にあります。面積は670.10km²、人口は約10万3,000人のまちです。

特産品は、「豊基(プンギ)高麗人参」や「栄州リンゴ」などがあります。

文化産業交流訪問

10月6日から10月9日まで

静岡県が実施する東アジア文化都市地域連携プログラムのもと、富士宮市文化連絡協議会から10人が参加し、派遣事業を実施しました。栄州市の一大催事である「豊基(プンギ)人参祭り」のステージで、大正琴と詩吟を披露し、日本文化の魅力を発信しました。



▲栄州ダムを視察する文化産業交流訪問団



▲開会式にて富士宮市の魅力について語る須藤市長



▲大正琴アンサンブル富士宮ことふれんどの皆さんによる公演



▲岳心流富士宮愛吟国風会の皆さんによる詩吟の公演

市との交流



もたちのサッカー交流を通じて栄州市を訪問したことがきっかけです。
友好提携の申し入れがあり、2012年(平成24年)11月5日に、富士宮市



▲世界遺産 浮石寺



▲世界遺産 紹修書院

中学生交流研修

10月5日から10月9日まで

栄州市との中学生交流事業は、平成24年から始まり、今回で8回目となります。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実に5年ぶりの栄州市訪問となりました。

今年は、市内公立中学校の2年生14人(男子1人、女子13人)が参加しました。

栄光女子中学生と交流

栄光女子中学校の全校生徒が参加する歓迎式では、富士宮市の中学生が、英語で日本文化や富士宮市の名所を紹介しました。

共同授業では、ペアの生徒と一緒にコミュニケーションをとりながら、技術科目の授業を体験しました。

また、栄州市の名所、浮石寺とソンビ村、紹修書院などを栄光女子中学生と一緒に見学し、韓国の古い歴史を学ぶとともに、別れを惜しむほど交流を深めました。



▲富士宮市の派遣中学生と栄光女子中学生



▲ペアの生徒との共同授業の様子



▲韓国式の餅つき体験の様子

行ってみませんか みんなの憩いの場 どころ 地域寄り合い処



寄り合い処は、地域の方たちが、身近な人たちとおしゃべりを通じて、仲間づくりや生きがいづくりができる場所です。

誰でも参加できます

地域の区民館、集会所、自宅などを活用し、地域住民の閉じこもりや孤立を防ぎ、健康づくりなどを目的に活動しています。

富士宮市内には、115か所の寄り合い処があり、月に1~3回活動しています。

寄り合い処は、参加費無料です。

赤ちゃんから高齢の方まで、気軽に参加できます。

地域の寄り合い処は
こちらから



活動内容は自分達で決められます

自分たちの興味や関心を持っていることを企画したり工夫することで、みんなが楽しく参加できる活動を行っています。

- ・健康維持のためのレクリエーションゲーム
- ・おしゃべりを楽しむお茶会
- ・歌・ゲーム・脳トレ
- ・季節の行事など



地域とつながり支えあう社会

昔は、ご近所同士で井戸端会議をしている様子がよく見られましたが、最近では、お隣りさんがどんな人かもわからないというように、地域の中の交流も少なくなっています。

「遠くの親戚より近くの他人」ということわざがあるように、近隣の人同士のネットワークがいざというときに頼りになります。誰もが安心して自立した生活ができるよう、地域のネットワークづくりが大切です。

仲間づくり
つながり

参加者同士の見守り・
支えあい

介護予防
認知症予防

孤立・
閉じこもり予防

悩み相談
困りごとの発見

地域の活性化





▲マジックショーで世代交流をする「しもゆの寄り合い処」



▲ゲームで交流をする「なかいで寄り合い処」



▲体操をする「山宮寄り合い処さくら」



▲歌とお茶を楽しむ二の宮寄り合い処「曲り松」

寄り合い処スタッフ研修会

寄り合い処は、地域の方々が運営しています。スタッフ同士の情報交換や、課題を共有するために、運営するスタッフの研修会を定期的に開催しています。

令和5年度は、8月26日に富士宮市総合福祉会館で開催し、90人のスタッフが参加しました。

研修会では、スタッフからの実践発表を通じて、スタッフの協力や連携、地域の中での役割、参加者主導の活動など各寄り合い処の工夫とともに、後継者問題や利用者の減少などの課題を共有し、無理なく楽しみ、気軽に参加できる寄り合い処を目指していくことを確認しました。



運営スタッフを募集しています

☎ 社会福祉協議会 地域ささえあい係
☎22-0054

東日本大震災から12年 復興が進む岩手県山田町・大槌町 ～富士宮市の東北復興支援～



▲山田町役場屋上から望む中央町地区。沿岸部には、高さ約10mの防潮堤が築かれています。

富士宮市では、東日本大震災の被災地である東北地方にさまざまな復興支援を行ってきました。被災地に派遣した職員は延べ63人にもなり、中でも岩手県山田町と大槌町には平成25年度から5年間にわたり、両町に1人ずつ職員を派遣しました。また、両町とは平成29年8月に「災害時の相互応援等に関する協定」を締結するなど、今もなお強い絆で結ばれています。



▲山田町役場屋上にて佐藤^{しんいつ}信逸町長(中央)と



▲大槌町役場にて平野^{こうぞう}公三町長(前列中央)と

現在の復興状況

10月15日(日)～17日(火)にかけて、市長と派遣職員らが両町を訪問し、現在の復興状況を確認しました。市街地では土地がかさ上げされ、道路や町営住宅、戸建て住宅などが建設され、「まち」の復興が進んでいます。

山田町



▲平成23年3月



▲令和5年10月

大槌町



▲平成29年4月



▲令和5年10月

派遣職員紹介

山田町と大槌町で発生した震災がれきを富士宮市で受け入れ、焼却処分することを検討しましたが、焼却灰の受け入れ先が見つからず、断念せざるを得ませんでした。そこで、静岡県市長会から、被災地への職員派遣要請を受けた際には、要請(1人)を上回る2人の職員を派遣しました。派遣職員はプレハブの仮設住宅に住みながら、復興事業に従事しました。

山田町



中山 淳 係長

復旧した駅などを見たとき、派遣当時の町の景色を思い出し、復興の進みを感じました。役場の仲間と再会できたことも良かったです。

派遣期間:平成26年4月1日～平成28年3月31日
業務内容:土地の現況確認調査及び評価作業など



深澤貴澄 主査

派遣当時を思い返すと、ここまで復興されたことは胸に迫るものがあります。今後も山田町の発展を祈念しています。

派遣期間:平成28年4月1日～平成30年3月31日
業務内容:土地の現況確認調査及び評価作業など

大槌町



齊藤 一盛 係長

今回の被災地訪問で、復興の様子を見ることができました。今後とも、被災地に思いを馳せていけたらと思います。

派遣期間:平成25年4月1日～平成27年3月31日
業務内容:災害復旧に係る固定資産税賦課業務



有野賢人 主査

派遣当時の町並みから、復興がここまで進んだことに感動しました。今後とも両町との架け橋になれればと思います。

派遣期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日
業務内容:町営住宅の建設に関すること

子どもたちに夢を与える 富士宮市出身のプロサッカー選手



清水エスパルス 吉田 豊 選手

15歳まで富士宮市で育った吉田選手は、高校卒業後、ヴァンフォーレ甲府でプロサッカー選手としてのキャリアをスタートさせました。その後、平成24年から26年までの3年間、清水エスパルスに所属し、サガン鳥栖、名古屋グランパスを経て、今シーズンから清水エスパルスに復帰しました。



写真提供：清水エスパルス

プロフィール



平成2年2月生(33歳)
身長167cm 体重72kg
ポジション:ディフェンダー
富士根南小・富士根南中・静岡学園高等学校 卒業
U-15、16、17、22、23のそれぞれの日本代表に選出
富士宮やきそばをこよなく愛する4児のパパ

母校の後輩たちと…

9月27日、吉田選手は、母校の富士根南小学校を訪れ、「卒業生1日先生」の講師をし、6年生の児童とパスやリフティングで交流をしました。

吉田選手は、「サッカー漬けだった小学生時代を振り返りながら、努力する大切さを伝えると、子どもたちが目をキラキラさせながら話を聞いてくれ、とても嬉しかった」と語ってくれました。



▲富士根南小の児童とリフティングで交流する吉田選手

子どもたちの未来のために

吉田選手から、ふるさと富士宮市の発展に使ってもらいたいと多額のふるさと納税をいただきました。また、その返礼品のトイレットペーパー全てを、市内の小中学校に寄附していただきました。

吉田選手は、「また、市内の学校を訪れて地域の皆さんと交流したり、子どもたちをスタジアムに招待できれば嬉しい」と語ってくれました。



▲10月18日 市役所を訪れ、ふるさと納税をした吉田選手